

# 2013 宮城県リトルリーグ野球協会会長杯マイナー大会規則

## I 大会規則

(財)全日本リトルリーグ協会リトルリーグ委員会公認競技規則並びに本大会規則による。

## II 登録及び義務

### 1. 選手

1) 人数 登録選手数は9名以上20名以内とする。

### 2. 監督及びコーチ

1) 監督 1名

2) コーチ 2名まで

3) 監督、コーチは成人の者に限る。

## III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニフォームの胸に明確にリーグ名の表示のある物に限る。

なお、白色のアンダーシャツは認めない。

2. 監督及びコーチは、上着は襟付きの白、ズボンは白又はグレーで統一したものを着用する。

3. 監督及びコーチの帽子は、選手と同じ物又は白で統一したものを着用する。

## IV 用具

1. 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット(耳カバー付)、プロテクター(ロングタイプ)、マスク、スロートガード(のどあて)及びカップを着用する。

2. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持込を禁止する。

3. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。なお、投手は投球時は使用できない。

4. サングラスの使用は、選手のプレーに必要なときは認める。また、監督、コーチの使用は禁止するが、大会本部が許可した場合はこの限りではない。

5. ヘルメットのアゴひもを着用すること。

6. グラブのひもが必要以上に長い物は認めない。

7. 出場選手は安全確保の為、胸部保護パッドを着用すること。

8. バットは非木製でBPF1.15の表示のあるものみ使用。

## V 試合の準備

1. ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。

2. 攻守は主将により、試合当日決定とする。

3. シートノックは後攻より5分間とするが、都合により短縮及びカットする場合もある。

4. 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

## VI 試合の運営

1. 本大会はトーナメント方式とする。1時間10分制もしくは5回までとし、同点の場合は抽選とする。  
準決勝・決勝戦は1時間30分とする。延長戦は9回までとし、9回で決着がつかない場合はタイブレーク制を適用。(時間外)
2. 全試合、点差によるコールドゲームを適用し、**3回10点差・4回以降7点差とする**。(準決勝・決勝戦も含む)
3. ベースコーチに指導者(監督・コーチ)を1人認める。
  - 1) 一塁・三塁どちらのコーチャーボックスでも良い。
  - 2) 同一イニング中はコーチャーボックスの移動はできない。
  - 3) 同一イニング中はコーチャーボックス内の指導者の変更は認めない。
  - 4) 指導者がコーチャーボックスに入らなくても良い。なお、イニングの途中の出入りは認めない。
  - 5) 任務
    - \* 打者及び走者への指示に限る。
    - \* コーチャーボックスから出て打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムに数える。
  - 6) ペナルティー
    - \* 選手に対し、威圧的な言動があった場合、1回目は警告する。
    - \* 2回目は監督の退場となる。
4. ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることは出来ない。
5. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。  
なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督及びコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。  
但し、守備側の指示より長い時間は認めない。
6. 監督及びコーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このとき捕手及び内野手が集合しても良い。監督・コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
7. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。但し、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めないことがある。
8. 投手のウォームアップ時に、打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
9. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。  
もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。同様の行為を再度審判員がみつけた時は、当該リーグの監督を退場させる。
10. ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
11. ベースコーチなどが、打者走者(走者)の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーとコールする行為を禁止する。
12. 臨時代走
  - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。

なお、臨時代走者は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。

2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、選手交代となる。

3) 頭部に投球及び送球を受けたときは必ず臨時代走を出すこと。

13. 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトとなる。

但し、帰塁時のヘッドスライディングは認める。

14. ボークが発生したときは走者を進塁させず、ボールをカウントする。

15. 一試合に起用する投手の数は制限しない。

16. 試合開始、終了の挨拶のときに監督は、選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

## VII 監督、コーチ、選手の退場

次の場合、大会本部及び審判員は、監督、コーチ、選手を退場させる。

1. 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し、暴力及び暴言があった場合、監督及び当該者を退場させる。
2. 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。

## VIII スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に返球する。
6. 打者は打者席を外さずに、ベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

## IX 補則

1. ベンチ内のプレーについて
  - 1) 常設の正規の球場は競技規則通りとする。
  - 2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からハーフスイングのリクエストを受け付ける。
3. 全野手がファウルラインを超えた時に、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、この野手がボールデッド地域に倒れこんだ場合はボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んでも倒れこまなかった場合はボールインプレーとなる。
5. 打者アウトルール改正
  - 1) 第3ストライクを正規に捕球した場合。
  - 2) 無死または一死で一塁に走者がいるときに第3ストライクが宣告された場合。
  - 3) 不正バットによる反則行為。
6. ネクストバッターサークルは作らない。次打者はベンチの出入口付近に待機する。
7. 監督、コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
8. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしない。(コーチャーボックスのタッチ禁止)
9. 選手はユニフォームをきちんと着用すること。

## X 特記事項

1. 「全員出場の規則」と「スペシャルピンチランナー」は、採用しない。
2. 「投手の規則」
  - 1) 降板した投手は、投手には戻れない。
  - 2) 投球制限をする。1日の投球数は、小学校5年生以下は75球とする。  
投手が1試合に21球以上投球した場合は次の試合には投球できない。(1試合空ける)  
ただし、20球以内の投球数であれば、上記投球数を限度に当日の第2試合に登板できる。
  - 3) 試合で41球以上の投球を行なった投手は、その日は捕手を務めてはならない。
  - 4) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。
3. ベンチ入り後は一切ベンチの外に出られない。やむを得ない場合は審判員の許可を得て出ることとする。  
許可無くベンチを出た場合は、その時点でベンチに入れない。(指導部・選手)
4. 「球場内の練習・応援注意事項」
  - 1) 試合前の練習はフリーバッティング、トスバッティング、ノック等、バットにボールを当てる行為を禁止する。  
(外野・敷地内全て。選手のケガ防止。アップの場所である。)

ただし、素振り・キャッチボール等の使用できます。

2) バックネット裏・ベンチ裏・外野での撮影・応援は全て禁止。(カメラのみの設置含む。)

所定の場所での活動をお願いします。



3以内)





